
図書室

みかんだいふく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

図書室

【Nコード】

N2139T

【作者名】

みかんだいふく

【あらすじ】

温かいような紙のにおいと、静かな空気。
私の大好きなもの。

そこに、もっともっと大好きな彼が現れます！

重い扉を開くと、どこか温かい……紙のにおいが鼻をくすぐる。

カビっぽいなんて言う人もいるけど、こんなにも素敵なおいはないと思う。

図書委員専用のカウンターに座って、誰かが来るのを待つ……誰か？ ううん、彼がくるのを待ってるんだ。

ガチャリ。また、重い扉が開く。

がばつと音がしそうなほどの勢いで、私は顔をあげた。

「ど、どうも」

入ってきた男子生徒は、それに驚いたみたいで、軽く引いていた……ごめんね。

でも、これはしょうがないよ。だって、今の私は彼を待ってるんだから。

手元にある本に視線を移す。

彼が貸出の予約をしていた本……今日が、その予約の日だ。

今日、彼がこれを借りに来るはず……だから、私はさっきから扉に目をやってしまう。

ガチャ……。

ゆっくり、ゆっくり扉が開く。

彼だ。

一步一步、彼がこちらに歩いてくる……ち、ちよつと待って!?

心臓の音が、これまでにないくらいはやい……こんなに、緊張するものなの?

「予約してた本なんだけど、ある?」

澄んだ声が、静かな空間に響く。

さっきの男子生徒が本のページをめくる音と重なって……私の好きな二つの音が一つになる。耳が喜んでいるみたい。

「あ、はい!」

本を差し出して、ちらりと彼の顔を見る。

「ありがとう。これ、読みたかったんだよね」

『フェンスの向こう』……中学生の女の子が書いた闘病記だ。

私も、二年前に読んだことがある……感動して、涙が止まらなかった。

「すごく、いい本だよ」

思わず口走っちゃった……私の言葉に、彼は驚いているみたい。
やだ、また失敗？

「そう？　じゃ、なおさら楽しみだ」

彼が、本当にうれしそうな顔をして言う。

それを見た私も、頬が緩む。

今まで、何度も彼を目で追っていた。話しかけたいなって、思っていた。

とても遠くに感じていた彼が、今はこんなにも近い……彼の声が、息が届く。

「そうだ、この本のアナザーストーリーなんだけど、『フェンスの先には』って本なかったっけ？」

『フェンスの先には』……それは読んだことがない。でも、確か図書室こしょにあったはず。

「あ、ありますよ」

ちょうど背後の本棚にあったので、それも手渡す。

「ありがと！ これは読んでないの？」

「ま、まだです」

「じゃあ、次に貸すよ。感想とか言い合いたいし……駄目かな？」

「え……」

それって……これからも、彼と関われるってこと？ 今日が、最初で最後じゃないってこと？

「駄目じゃない、です……」

彼があの本を読み終えるのは、いつだろう。

明日かな？ 明後日かな？

ううん、一週間、二週間先かもしれない。私、それまで待てるかな？

きっと、心臓がもたないよ……。

静かで落ち着いてて、心地いい空間。

明日から……ううん、今日からそこに、新しくドキドキが加わります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2139t/>

図書室

2011年5月14日14時44分発行